

## 第2章 計画の基本的な考え方

### 1 基本方針

子どもたちが読書の楽しさを知り、自ら進んで読書に親しむことができる環境をつくりま

す。読書の習慣は、小さな時からの環境に大きく影響されます。本が身近にある、家族で本を読む時間を持つなど、身近にいる大人の考え方で、本に接する機会を増やすことが可能となり、本の楽しさを伝えることができます。そのために、乳幼児から本に接することができる環境をつくり、さまざまな場所において、読書を気軽に行えるような働きかけが必要です。

子どもに関係する機関や団体と協力して、本に親しむことができる環境を整備するよう努めます。

### 2 基本目標

すべての子どもたちが読書に親しむ機会を持てるように、子どもに関係するすべての機関で読書の推進を図ります。

子どもたちが読書に親しめる事業を行うために、子どもに関係する機関で情報交換を行い、協力して子どもの成長に合わせた具体的な推進活動を行います。

- ア 家庭・地域における子どもの読書活動の推進
- イ 保育園・幼稚園・学校における子どもの読書活動の推進
- ウ 図書館における子どもの読書活動の推進
- エ 関係機関、団体との連携・協力体制の推進

### 3 計画の対象

0歳から、おおむね18歳までを計画の対象とします。

18歳までを、大きく4つの期（乳幼児期、小学生期、中学生期、高校生期）に分けて推進します。

### 4 取組方法

子どもの年齢や成長段階に合わせた読書活動を行います。

子どもの年齢や成長段階により、適した本や好まれる本が異なります。また、対象とした事業も異なります。

子どもに合わせた読書活動ができるように、年齢に応じた取組を進めます。